



2022年度 グリフィンズ便り No.4 VS 中央ラクーンズ

法政戦・戦績

91.44cmの壁、超えられず敗北

岩崎恭之監督interview

<勝敗を分けたポイントを3つあげるとしたらどこか?>

誰が見ても明らかだとは思いますが、前半で相手ゴール前残り1ヤードで4thダウンギャンブルを2回失敗したところが一番大きな敗因です。取れるパスを簡単に落としてしまう等を含めて、ヤード数は獲得できても、オフェンスとしてリズムに乗り切れず、得点するまでには至らない=決定力不足が改善できなかったところも敗因だと思います。

もう一つ挙げるとすれば、法政大学RBの星野君に団子になった状態から密集を抜けられ、そのままタッチダウンを取られてしまったところでしょうか。

<二次リーグ以降に向けて>

残念ながら一次リーグでは2敗を喫してしまった。2位通過となりました。一次リーグの勝敗が二次リーグに持ち越されるため、他力本願になってしまいますが、二次リーグの残り3試合を全勝することで、僅かながら甲子園ボウル出場の可能性が残っています。

勝つためには、1インチでも前に行くという「意志」、自分に任された役割を完遂する"Grit"、そして信じた道を愚直に突き進むというGRIFFINSらしい泥臭いフットボールを体現する必要があります。もう一度原点に立ち返って、一戦一戦を大切に戦っていきたいと思います。

中央戦みどころ

右記は昨年の中央戦の結果。残り15秒で逆転され惜敗。昨年とはメンバーも変わっている。これまでの戦いでチカラもついている。とはいっても、数秒での戦略、その決断が勝負の分かれ目になる。

前節、早稲田戦は、2タッチダウンでリードするものの、追いつかれ、追い越され、残り21秒でフィールドゴールで同点に追いつき、タイブレイクに持ち込む。時間を使って最後まで戦いきる粘り強いチーム。

#10QB西澤慧介からスーパーラーキー#13WR松岡大聖へのパス、初戦怪我で出場できなかったエース#6RB北澤健作を主軸に攻撃を展開。松岡だけではなく#82WR藤崎惇之助、#89WR松下裕貴をはじめとするシニアなレシーバー陣が確実にキャッチで前進し、要所で#6北澤のランで進んでいく。

グリフィンズディフェンスとしては、#10西澤にパスを投げる隙を与えない、セカンドエフォートでじりじり進まれないよう、#6北澤のランの走路を塞ぐ。

法政戦では、確実にゴール前まで攻め込んでいたグリフィンズオフェンス。臆することなく、ミスなく前進あるのみ

FINISH IT !

	1Q	2Q	3Q	4Q	合計
明治 大学	0	7	7	8	22
中央 大学	10	0	3	13	26

得点経過

チーム	クォーター	時間	PLAY	PLAYER(S)	ヤード	PAT	明治	中央
中央	1	3:13	PASS	#10 西澤 → #17 相浦	30	K #0 渡邊	G	0 7
中央	1	10:57	FG	#0 渡邊	41	-	-	0 10
明治	2	4:34	PASS	#1 吉田 → #40 大島	13	K #13 舟橋	G	7 10
中央	3	8:01	FG	#0 渡邊	25	-	-	7 13
明治	3	9:58	PASS	#1 吉田 → #86 羽深	18	K #13 舟橋	G	14 13
中央	4	3:54	PASS	#4 土屋 → #17 相浦	4	R #4 土屋	NG	14 19
明治	4	7:18	RUN	#22 保坂	12	R #6 森川	G	22 19
中央	4	11:45	PASS	#10 西澤 → #81 寸田	12	K #0 渡邊	G	22 26

チーム記録

	明治大学	中央大学
タッチダウン	回数	3
PAT	1点 回数 - 成功	2 - 2
	2点 回数 - 成功	1 - 1
フィールドゴール	回数 - 成功	0 - 0
セイフティ	回数	0
ファーストダウン (ラン-バース-反則)	14 (6 - 7 - 1)	20 (4 - 15 - 1)
パス 試投-成功-INT	20 - 12 - 1	44 - 28 - 1
		240
ラン 回数-獲得ヤード	22 - 100	26 - 98
攻撃 回数-獲得ヤード	42 - 222	70 - 338
反則 回数 - ヤード	1 - 15	2 - 25
ファンブル 回数 - 喪失	2 - 2	1 - 0
3rd DOWN CONV.	38% 3 / 8	47% 8 / 17
4th DOWN CONV.	0% 0 / 1	100% 2 / 2
ボール所有時間	18 ' 13 "	29 ' 47 "

関東学生アメリカンフットボール連盟HPより抜粋
http://www.kcfa.jp/files/user/result_pdf/2021112702.pdf